私たちの活動について ご案内します

NPO法人 森林ボランティア トモロス

森を活かそう

森林ボランティアトモロス
Tmolus

トモロスが目指す森づくりとは

堀 泰明（ほり やすあき）【トモロス理事長】

◇いのちを育む森づくり

300年の伝統がある河内林業地では、高齢化や不採算などで林業従事者が減り、下草刈り、枝打ち、間伐など適正な育林が行われなくなり、暗い人工林（スギ、ヒノキ）が増えました。手入れされなくなった人工林は、人にとって大切な森林機能を十分に発揮できなくなります。良質の木材を生産できなくなるばかりか、水源涵養※、土砂災害防止などの機能も発揮することができません。

また、河内長野では数少ない里山林（クヌギ、コナラなど）も、薪や炭、シイタケ栽培などに利用されなくなったため、「竹林の侵入」や「ナラ枯れ被害」を招いています。放置された森林は、人工林、里山林を問わず、植生とそこに集まる生物が少ない貧しい森林となってしまいます。

今、森の再生が必要です。

私たちは、様々な理由で放置されている森の手入れに取り組みます。母なる森、本来、森が持つ豊かな生態系を復活させましょう。たくさんのいのちを育む森林環境こそ、私たちにも、たくさんの恵みを与えてくれます。

◇地域をつなぐ森づくり

森はたくさんの生物のもの、すべての人たちがその恵みを受けることが出来るものです。しかし、そのためには、すべての人が森を大切に思い、それぞれの立場で森づくりに力を貸してくれることが必要です。まずは森林に関心を持ってもらうこと。

私たちは活動地近隣の中山間地域の皆さまにトモロスの森づくり活動をご理解いただくことをはじめ、広く市民の皆さまに森や木に親しんでいただくための活動をします。

「岩湧の森・魅力向上事業」「美加の台緑地里山再生プロジェクトと植林活動の支援」「高野街道酒蔵通りプロジェクト杉玉作り支援」など、河内長野市、大阪府森林組合、河内長野市公園緑化協会、地域住民団体、関係ボランティア団体などと協働して活動を行っています。

私たちの森や森を取り巻く自然に対する思いをつないでくれる人、活動をつないでくれる人を増やしたい、そういう思いで、森林ボランティアの育成、森林教育、市民啓発活動を行い、また他団体の応援をします。

※水源涵養(すいげんかんよう)：水資源を蓄え、水質を浄化し、川の流量を安定させ、洪水や渇水を緩和する働き。

トモロスが目指すボランティア活動とは

ボランティア活動には、次のような4つの原則があります。

①他人から強制されるものではなく、自由意志で行う「自主性（主体性）」

②誰もがいきいきと暮らしていけるように、お互いを支えあう「社会性」

③人との出会いによって、お金では得られない発見や感動、喜びを得る「無償性」

④社会に必要とされる姿を常に考え、先んじて創る「先駆性」

ボランティア活動とは無償だからこそボランティア活動であり、有償活動はボランティアではないと考える団体や個人活動家の方も多いと思います。しかし、トモロスは無償であるかないかより、「活動の社会的必要性」および「活動の継続性」がより大切だと考え、有償活動にも積極的に取り組んでいます。

＜沿革＞

■2006年2月、河内長野市森林ボランティアリーダー養成講座 第1期生30名が、河内長野森林ボランティア「トモロス」を設立

■2008年度より、トモロスが森林ボランティア養成講座の運営を引き継ぐ

■2013年4月、法人格を取得し、NPO法人森林ボランティア トモロスへ移行

＜表彰＞

■2016年11月、河内長野市市民表彰受賞

■2017年　5月、大阪府みどりの功労者表彰受賞

■2018年11月、全国育樹活動コンクール「林野庁長官賞」受賞

＜会員＞

■2018年12月1日現在、運営会員28名、普通会員40名、顧問4名、合計72名

母なる森は今

西胤 玲仁（にしつぐ れいじ）　【トモロス監事、3期生】
自然再生士、樹木医、森林インストラクター

森林とは樹木が優占した植物の集まりのことをいい、3億5千万年前にシダ植物により初めて地球上に生まれました。その後、裸子植物、被子植物と進化した植物によって多様な森林が形成されてきました。

森林は、けっして植物だけが生い茂る場所ではありません。土壌微生物、昆虫、鳥、動物、キノコの仲間など多様な生物やそれらを取り巻く環境との相互作用によって、森林生態系が形成されています。

人類は古代より森林およびその周辺部で生活を営み、多くの恵みを森林生態系から得てきました。

森林生態系は食料や木材の生産機能を始めとして、生物多様性の保全、二酸化炭素の吸収・蓄積、土壌の保全、水源涵養、快適な環境の形成など多くの機能を持っていますが、それらが将来にわたって持続可能であるかというと黄色信号が灯っている状態です。

スギ・ヒノキの人工林や身近な里山はもちろんのこと、日本の森林の大部分は何らかの人の手が加えられており、いま森林で起こっているマツ枯れ、ナラ枯れ、竹林の拡大、シカやイノシシによる被害などの様々な問題も、そのほとんどが人による活動の変化や森林管理を放棄したことが原因となっているといっても過言ではありません。

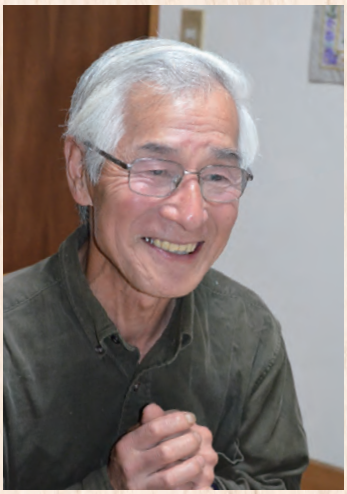
森林には自己修復力があるとはいえ、一度人が手を加えて改変した森林生態系を良好な状態に維持または復元していくためには、適切な森林管理を続けていく必要があります。

それがいま森林生態系から様々な恩恵を受けながら生きている我々の、次世代の人たちに対する責務ではないでしょうか。

森の恵みを次世代へとつなぐ
～河内長野の場合～

奥野 壽一（おくの ひさかず）　【トモロス顧問・初代会長】
大阪府指導林家、河内長野市林業研究会 元会長、
大阪府森林組合 元代表理事副組合長

山林を所有する山主として山林経営の危機感を覚え、私が自ら林業家としての道を歩むようになったのは、今から約40年前のことです。1960年代の関税引き下げにより木材輸入が拡大し国産材価格が低迷、1970年代に林業は国産自給率が20%になるまでの停滞期を迎えました。この結果、間伐などの森林管理が適正に行われず、「このままでは大切な森林が次世代に引き継げないのでは」という思いを抱くようになったのです。



そこで、問題意識を共有する有志が集まり「河内長野市林業研究会」を発足させ、林業家二世の育成を目指すとともに森林と林業再生への試行錯誤を始めました。路網整備を始めとする森つくりの課題解決を図ると同時に、急務であった森林整備の担い手育成のために、2005年に「森林ボランティアリーダー養成講座」を開講し、翌年2月には、講座一期生らと共に河内長野森林ボランティア「トモロス」を設立しました。

当時、森林ボランティアと言えば、「里山再生」の活動が主流で、人工林整備を目的とする活動はほとんどなく、初めての試みでもありました。

前例のないなか、危険を伴う森林整備活動を、事故なく安全に行うことを最優先課題として、伐倒方向などの安全対策を柱とした独自の施業方法「河内長野方式」を考案しました。この「河内長野方式」は、現在もトモロスの作業指針の根幹を成すものとして有効に機能しています。

河内長野市の面積の7割は森林、さらにその7割が人工林です。ここで営まれる河内林業は、今後、寺社仏閣や新国立競技場など公共事業に利用していただくため、伐期150年以上の大径木・高品質材の生産を目指しています。一方、まだ多く存在し実態さえ把握できていない未整備林の対策に、森林ボランティア活動（トモロス）の役割は重要だと考えています。

MISSION 1 森林を守り、竹林を整備する

溝畑 滋（みぞはた しげる）【6期生】

育林

森を育て、森を活かす「育林」は私たち「トモロス」の最も大事なミッションです。

スギやヒノキなどの人工林では戦後に植林されたものが育ってきましたが、最近の林業の衰退で手入れが滞り、森の荒れが顕著で景観も損なわれています。

森林の手入れは、手順として除伐→間伐→枝打ちを適切な間隔で行います。

除伐は形質の良い樹木の生育条件をよくするために、目的樹種以外の侵入樹種を中心に行います。除伐の際には絡み合った蔓（つる）も取り除きます。

続く作業の間伐は目的樹種が混みだして細長の木の集団になることを防ぎ、優良木の成長を促すために行います。その頻度と強度は作業する現場の状況により異なります。

間伐作業は危険を伴う作業で、伐倒時につるを残す※ことや伐倒方向を山側にする「河内長野方式」を採用するなどして、安全に細心の注意を払って行います。

①伐倒

伐倒した材は一部登山道の階段や薪に利用しますが、多くはその搬出が困難で2m程度の長さに玉切し、現地に転げ落ちないように積み上げて存置します。

枝打ち作業は従来節の無い良質材を育てるために行われてきましたが、私たちは林内に光を呼び込むことや景観を良くすることを第一に考えて行っています。

これらの作業は数年を経て適切な間隔で定期的に行うことが望まれますが、私たち「トモロス」は次世代に美しい森林を引き継ぐ作業を継続していこうと考えています。

※つるを残す：全部切り離さないで、一定の幅を残すこと

②積み上げて存置

③枝打ち

《最近の実施場所》岩湧の森、紀見峠、日野、美加の台など

竹林整備

近年、里山に竹林が侵入して枯れた竹が放置され、その景観が問題になっています。（写真①）

孟宗竹・真竹は春先に成長が著しく、丈や地下茎が伸びます。竹林を皆伐する時は、数年同じ作業を繰り返すことで、竹林がほぼ消滅します。（竹林を間伐するときの残す竹の間隔は、2m程度とします。）

①整備前

伐倒した竹は3mに玉切りし、集積地に揃えて積上げておきます。その際竹梢と枝葉は分けて積上げて、美観を保つようにします。

②整備中

③整備後

《最近の実施場所》 上原環境緑地、美加の台竹林など

会員からヒトコト　松尾 宏（まつお ひろし）【4期生】

私は子供の頃、河内長野の山で、虫捕り、芋ほり、ハイキング、川遊びなどをしました。

縁あってこの街に住むことになり、子供の頃に、遊んだこの山の楽しい思い出をまた、子供達に残していきたいと思い、森林ボランテイアに参加しました。そしてまた、山での楽しみが増えました。

会員からヒトコト　武居 義幸（たけい よしゆき）【1期生】

暇つぶしに森で、物言わぬ木と格闘し汗を流すも良いかと入会。

近頃は幻聴か、山乃神か精霊か木霊のお告げかつぶやきか、「安全第一、枝打ち間伐をしてもっと光を生物を」と聞こえてくる。

明日も森へ入る　森は命の故郷。

MISSION 2 広く皆さまに知っていただく

秋元 宏文（あきもと ひろふみ）【7期生】

体験学習

あなたは、木を切り倒したことがありますか？
トモロスでは、次世代を担う小学生・学生の皆さんに森林の大切さを学んでいただきたいと考え、体験学習や行事のお手伝いをしています。

例えば、河内長野市立高向小学校の5年生を対象に、毎年、行っているのが「間伐体験学習」です。

また広く、河内長野全域の小学生から大人までを対象にして、「ボランティア体験プログラム」を実施しています。

巣箱づくり

トモロスは、森林における生物多様性に着目しています。
そして、他団体の皆さまと共に活動することにより、我々の活動だけでは見えなかった視点の発見を試み、同時にそれを皆さまにもお伝えしています。

例えば、立木の枯損木やかかり木は倒れてくると危ないので一般的には伐倒しているのですが、森の生物の中にはこれを住みかとして利用するものもおり、ときには残しておくことが必要となります。

トモロスでは、2014年から日本バードレスキュー協会や野鳥の会などの他団体と一緒に、フクロウの巣箱づくりを行っております。

ボランティアフェスティバル／市民まつり

森林の大切さを広く市民の方々へPRするために、毎年2月の「河内長野ボランティアフェスティバル」、5月の「市民まつり」に参加しています。

この催し会場は森から離れた場所ですので、森林をより身近に感じていただこうと、木を使ったクラフト製作の体験イベントを行っています。

会員からヒトコト　島崎 充代（しまざき あつよ）【13期生】

市域の7割が森林という河内長野市。その自然を心と体で実感しながら暮らしたい、という想いがあります。

時代の流れに順応しながらも、変わらない、また変わっていくふるさとと少しでも関わっていたいという想いで活動に参加しています。

会員からヒトコト　竹原 明雄（たけはら あきお）【4期生】

私がトモロスで木工を始めたきっかけは放置され腐っていく間伐材を見て何かに利用できないかと思ったことでした。

山には面白い素材がたくさんあります。皆でアイデアを出し合って工夫を重ね工作することはとても楽しいです。

MISSION 3 地域に貢献する

アドプトフォレスト天見に参加

谷 信弘（たに のぶひろ）【6期生】

「大阪府」のアドプト制度のもと「髙島屋一粒のぶどう基金」「河内長野市」「トモロス」「天見の山主さん」を加えた5者協働の事業として、10年前にヤマザクラ・ケヤキの苗木を植樹しました。毎年、春秋の草刈り・剪定などの活動によって、ヤマザクラも成長し、山里の景観に色を添えています。

※「アドプトフォレスト」とは、森の養子縁組のことです

ハイキングロードの整備

ダイヤモンドトレール・長野公園

溝畑 滋（みぞはた しげる）【6期生】

私たちは金剛山系を縦走する長距離自然歩道の維持・管理を行う「ダイヤモンドトレール活性化実行委員会」に登録して、その一翼を担っています。

主に岩湧山からダイヤモンドトレールに通じる「みはらしの道」「きゅうざかの道」「すぎこだちの道」などの登山道の危険木、枯損木を取り除く作業を適時行っています。また、長野公園丸山地区の遊歩道でも同様の活動を行っています。

美加の台 第10緑地整備と植樹の支援

前川 正美（まえかわ まさみ）【7期生】

美加の台の周辺緑地は、長年、手入れをせず放置していたことが原因で、竹林が侵入するなど、荒れた状態になっていました。

トモロスは、美加の台住民の皆さまや河内長野市などと協力して、間伐などの林内整備を行い、陽の入る明るい健康な森つくりを目指しています。

さらに、地元植樹委員会からの要請で、美加の台中学校南側斜面に、サクラ・ヒラドツツジ・アジサイ・ユキヤナギの植樹を行いました。皆さまからは、緑地が美しく再生していくのを肌で感じられる、との声も聞かれるようになりました。

高野街道酒蔵通りの杉玉つくり

材料調達および作り方指導

谷 信弘（たに のぶひろ）【6期生】

地域の町おこしと景観保全を目的とした、地元の酒蔵通りプロジェクトの皆さんと河内長野市・森林組合・トモロスが協力して酒造りにちなむ杉玉を新酒の出来上がる季節に合わせて製作しています。間伐材を利用して製作された杉玉は、毎年酒蔵通りに展示した後、町内各戸の玄関先に吊り下げられます。

小学校の広葉樹伐採

番家 靖雄（ばんや やすお）【1期生】

石仏小学校から、「校舎のまわりの木が茂りすぎて教室が暗いので、木を切って明るくして欲しい」という依頼がありました。直径50cm、高さ15mのクヌギなどが30本ほど立ち、光をさえぎっていました。伐採は安全に配慮しながら、年3～4回のペースで行い、児童たちに見学してもらっています。

いわわきの森 四季彩館

岩湧の森「四季彩館」の運営に協力しています

矢寺 弘司（やてら ひろし）【11期生】

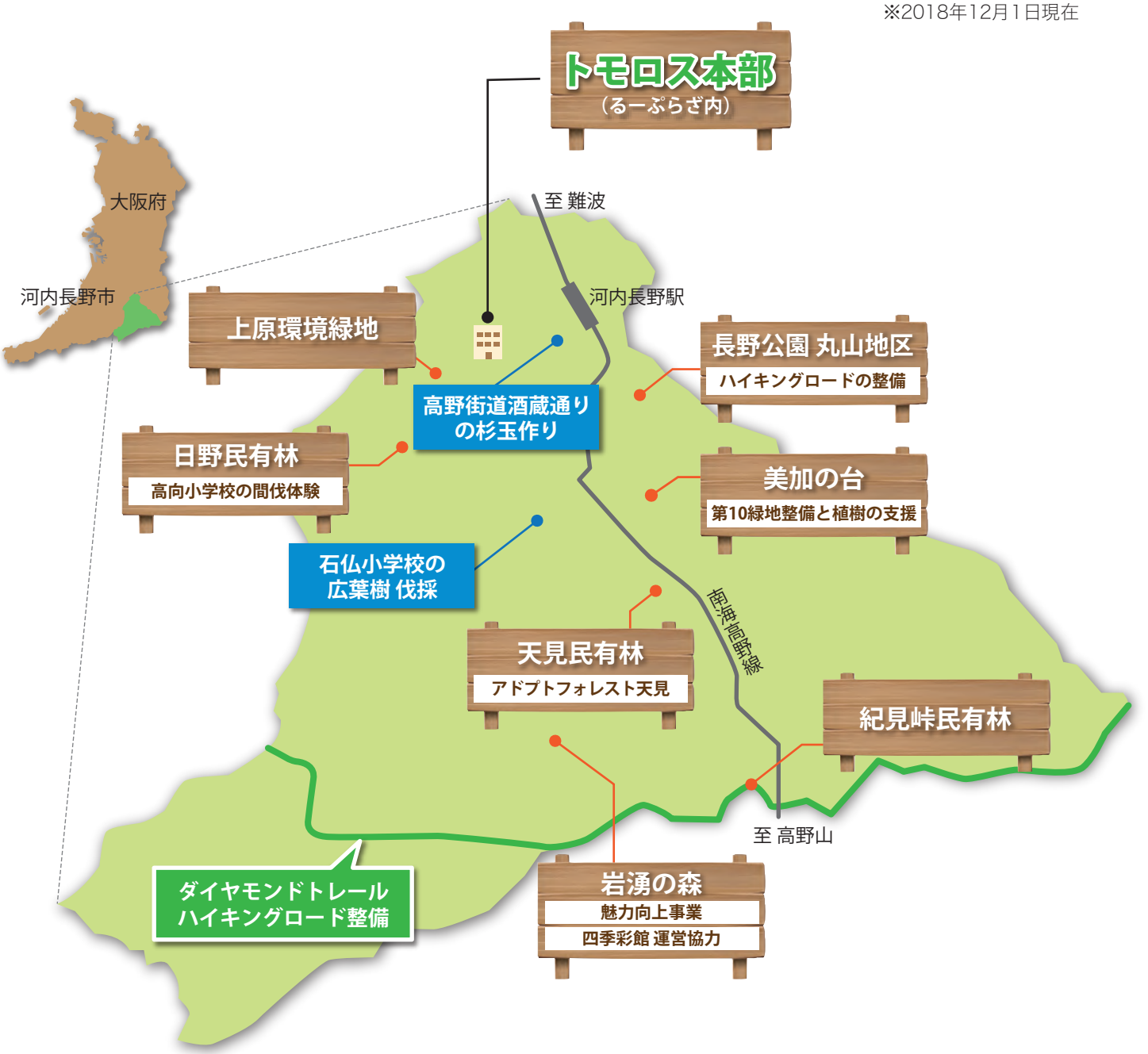
金剛生駒紀泉国定公園にある岩湧山の「岩湧の森」は、大阪府と河内長野市が整備する森林公園です。「四季彩館」は山の中腹、標高500mにあり、テラスから大和葛城山や南河内の町の眺望が楽しめます。

また、国産木材を使った、ゆったりとしたスペースは休憩所として広く市民に利用されています。

「自然観察会」「セツ道めぐり」「森のカフェ」「ムササビウォッチング」などの森林体験イベントが行われていて、トモロスはこの施設の運営に協力しています。

トモロスの主な活動地
（大阪府河内長野市）

※2018年12月1日現在



ご協力いただいている自治体・企業・団体など

※順不同

- 河内長野市（環境経済部農林課、環境政策課、都市づくり部公園河川課、市民生活部自治協働課 他）
- 大阪府（環境農林部、南河内農と緑の総合事務所 他）
- 公益財団法人 河内長野市公園緑化協会
- 都市公園長野公園管理協同体
- 大阪みどりのトラスト協会
- 大阪さともり地域協議会
- 大阪府森林組合 南河内支店
- 株式会社 髙島屋
- 株式会社 かんぽ生命保険
- NPO法人 日本森林ボランティア協会
- 河内長野市立林業総合センター 木根館（きんこんかん）
- 河内長野市立市民公益活動支援センター
- 岩湧の森 四季彩館

私たちの仲間になって
いっしょに活動しませんか？

私たちがトモロスと出会い、森林活動を行うことになったきっかけは各人各様です。

例えば、初めて生木を伐倒したときの爽快感が忘れられずに参加した者（筆者）や、リタイア後の空疎な生活に刺激を求めた方もおられます。あるいは、放置された森林が抱える様々な問題を知って何とかしようと思った先達、さらに地球温暖化を食い止めんと立ち上がった志の高い方もおられます。

日々の活動に対する組織としての目的は一つですが、自主的に活動に参加するメンバーの達成感のありようはそれぞれあっても構わないと考えています。

私たちは、きっかけが何であれ、私たちの活動に共感いただける多くの方々と一緒に活動できることを望んでいます。このパンフレットをご覧になって、少しでも興味・共感を持たれたなら、お気軽にご連絡をお願いいたします。

二藤 望（にとう　のぞむ）【7期生】

養成講座の開催

トモロスでは、毎年秋に河内長野市の後援を受けて、「森林ボランティア養成講座」を開講しています。

間伐や竹林の整備などの活動には、原則として養成講座の修了が必要です。講座の内容は、講義として「森林の基礎知識」、「林業・竹林の現状と課題」を、実習として「人工林間伐」や「竹林整備」の体験学習を行います。

開催日程・会場・受講費など、詳しい内容については、広報かわちながのやトモロスホームページをご覧いただくか、下記トモロス事務局までお問い合わせください。

会員募集

トモロスでは、常時、会員を募集しております。
会員資格は、成人であることのみ。男女の別は問いません。

なお、フィールド活動へ参加するためには、上記、養成講座を修了していただくことが要件となります。

＜会員の種別および会費＞

（1）運営会員　年会費　3,600円（NPO法上の社員）
（2）普通会員　年会費　3,600円
（3）法人会員　年会費　50,000円／1口
（4）賛助会員　年会費　10,000円／1口

森林ボランティアトモロス Tmolus
NPO法人 森林ボランティア トモロス
〒586-0025　大阪府河内長野市昭栄町8-12 るーぷらざ内
TEL 080-4497-5342　FAX 050-3730-9519　Eメールアドレス fva@tmolus.jp
公式サイトURL　www.tmolus.jp　トモロス　検索

＜2018年12月1日発行＞